

郷土愛

警鐘を鳴らし行動を起こした人がいた
 その偉業を後世に伝えようと尽力した人がいた
 そしてそれを受け継ぎ郷土を愛する人たちがいる



▼一揆を先導した武左衛門と、それに賛同し共に闘った農民の団結力▼その偉業を後世に伝える使命に燃えた井谷氏―。

これらの根底にあったものは、ふるさとを愛し、人を守るという「郷土愛の精神」だったのです。

その精神は、代々日吉に住む人たちの手で継承し、伝承され、今も日吉の地で生き続けています。

必ず先頭を走り地域を先導する人がいて、それを支え地域活性化に参加する人たちがいます。一人一人が武左衛門や井谷氏のような使命感を持つているのです。

しかし、住民は「特別なことをしている」という意識はないようです。なぜなら、そのようなことは「当たり前前のこと」になっているからです。つまり、武左衛門や井谷氏が身を置いて行ったことは、日吉の「地域性」となっているのです。

武左衛門の没後、農民たちはその死を悼み、墓を作りました。しかし、それを知った吉田藩は墓を捨て、

日吉小学校武左衛門太鼓

日吉小学校5、6年生(計25人)児童で構成する「日吉武左衛門太鼓」。今年度で26代目。日吉地区の地域行事などで演奏を披露している。その演奏は、第一部「農民の暮らし」、第二部「農民の怒り」、第3部「一揆」の3部構成。勇壮な演奏からは、当時の過酷さや農民の怒りなどがひしひしと伝わってくる

